

区分32	専門分野 血液学的検査	授業科目名	血液検査学実習	単位数	1単位 (40時間)
開講時期	2年 後期	担当教員	井田 博之	担当教員の 実務経験	有・無
◆実務経験の内容 国立病院機構病院に入職して(長崎医療センター→嬉野医療センター→九州医療センター→長崎川棚医療センター→福岡東医療センター→熊本医療センター)38年間の勤務経験の中で主に血液検査に従事した。認定血液検査技師として血液内科医師との骨髓像カンファレンスなどにも参加して、血液疾患患者の診断・治療に関与した。主任技師の立場では臨地実習生の指導を行い、技師長の立場では実習生の面談(就職相談)を行った。					
◆授業の目的・目標 止血、凝固、線溶について臨床検査技師として必要な臨床的意義と各種検査法を理解し、基本的な技術を身に付けることを目標とする。					
◆授業の概要・授業方針 各項目について、理論と基礎的技術手法を用いて試薬特性や技術を身につける。					
◆テキスト・参考資料等 教科書 血液検査学(医歯薬出版社)を中心に、試薬貼付の資料等を使用する。			◆成績評価の方法 出欠状況、授業に対する真摯さなどを観ながら、質問等に対する回答能力なども評価するが、最終的には試験での評価とする。		
授業計画					チェック欄
第1回	総論(止血・凝固・線溶、採血)、止血機序について				
第2回	実習 毛細管抵抗試験(陰圧法・陽圧法)、出血時間				
第3回	内因系・外因系・共通系凝固機序について				
第4回	実習 全血凝固時間、Ca再加時間				
第5回	外因系検査・複合因子測定検査について				
第6回	実習 PT(プロトロンビン時間)、ヘパラスチンテスト・トロンボテスト				
第7回	内因系凝固検査について				
第8回	実習 APTT(活性化部分トロンボプラスチン時間)				
第9回	共通系凝固機序、フィブリノゲンについて				
第10回	実習 トロンビン法(フィブリノゲン)検量線作成				
第11回	その他のフィブリノゲン測定法(免疫法)等				
第12回	実習 各種サンプルのフィブリノゲン測定				
第13回	クロスミキシング試験について				
第14回	実習 クロスミキシング(交差混合)試験				
第15回	凝固阻止機構について				
第16回	アンチトロンビン・PC・PS・トロンボモジュリン				
第17回	線溶検査について				
第18回	実習 FDP・Dダイマー				
第19回	まとめ 国試対策等について				
第20回	予備				